

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>安住の里の基本理念を元に、入居者が住み慣れた地域での安心した生活が送れるよう全職員で話し合い、地域生活の継続を支える為の方針を事業所の理念に掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>安住の里の基本理念と事業所独自の理念は見やすい所に掲示し、介護にあたって大切なことを全職員が共有し理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族には面会時や行事等で訪問した際、実際に見ていただき理念をわかりやすく説明している。事業所のパンフレットにも理念を載せ説明し、地域の住民にも事業所がどういう所かわかり易くPRをしている。</p>	<p>地域に足を運び事業所のPRをしつつ、相談や助言が出来る人材を増やしたい。 地域福祉事業へ参加しグループホームの概要や日常生活の紹介を行っている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>事業所周辺で農作業をしている地域住民の方々と日常の挨拶をはじめふれあいを持っている。事業所の玄関は裏側にあるため、来訪者は特養の玄関から入り立ち寄っていく事が多い。農村地域なので旬の野菜や山菜、手作りのお手玉や手芸品等を届けてくれる住民がいる。</p>	<p>事業所の玄関が道路から離れているため、わかりやすい案内板を設け地域内外の人にPRしていきたい。地域の老人会(寿幸会)との交流を通じ談話や作業から回想法の実現に結びつけていきたい。事業所の職員がキャラバンメイトとして地域に貢献できるよう知識や技術を身につけたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		<p>利用者が必要状態になったとき適切に活用できるよう定期的に検討会や勉強会を積みあげたり、権利擁護に関する情報を利用者やご家族に提供していきたい。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		<p>事業所の便りに加え、個々に手紙や写真等を自宅や子供へ発送し利用者との関係が滞らないようにしていきたい。</p>
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者への不安を最小限にするため異動は最小限に抑えるように働きかけているが、代わった時は個別ケアや対応の仕方を統一し顔なじみのケアを行っている。異動があった時は利用者に紹介し1日も早く馴染めるよう努めている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員で地域密着型サービスについて勉強会をし理解を深めている。ケアについてもお互い確認しあっている。併設の特養とのOJTやOFF-JTにはなるべく参加し報告書は全員で閲覧し、必要に応じて勉強会を行っている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>社協内の連絡会や地区のグループホーム協会等で意見交換はじめ、施設訪問して日常生活や活動をとおして自施設での気づきを得ながら改善へと繋げてサービス向上を目指している。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年次休暇とは別にリフレッシュ休暇を3日設けている。休憩時間は特養の休憩室を使用し職員間の交流の場を作っている。また、利用者から一時的に離れることで気分転換を図っている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>本所に衛生管理委員会を設け、心身の健康を保つような対応をしている。 管理者は、職員が向上心を持って働けるよう個別の業務や悩みの把握に努めている。 職能評価票を作成し、自己評価と自己計画表を作成し人事考課に繋げている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所して日が浅い方には家族の協力を得て、それまでの生活状況や様子を細かく聞きケアに結び付けている。 入所1年以上の方には、入居者の様子や出来事等報告しつつ職員間で共有に努め、入居者に家族同等の立場で支援するよう心がけている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の家族へ対する思いを受け止め、日ごろの状態を報告・相談しながら家族と入居者のより良い関係が継続するように努めている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮す顔馴染みの知人・友人がホームに遊びに来て、地元の話や近況を教えてくれる交流を大切にしている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい、入居者同士の関係作り、個性を生かす配慮を職員がサポートしている。 15時のおやつのはきは職員も一緒にお茶を飲み、業務から離れ会話を持つようにしている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退所された方には受診の際に面会したり、職員が休みを利用し出向いたりしている。退所者の多くが併設の特養に移っているので日常的に、入居者や職員は面会に行ったり来たりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりやご家族からの聞き取りを通し、思いや意向の把握に努めている。また、言葉や表情から推測したりしている。</p> <p>困難な場合は本人にとって好ましいと思われる対応を検討し実施している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人やご家族からどんな生活をしてきたのか(生活習慣等)聞き取りを行い、これまでの暮らしの把握に努めるとともに居室に少しずつ馴染みの物を取り入れるようにしている。(畳生活など)</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日々の関わりや介護記録等を通じて一人ひとりの暮らしの把握に努めている。</p> <p>個々の生活パターンを理解し出来る力を引き出すよう心掛けている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族には面会時や電話で思いや意見、アイデア等さり気なく聞くようにしている。</p> <p>介護計画作成に当たってはアセスメントを含め意見交換やカンファレンスをし、本人やご家族からの要望も取り入れ介護計画を作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は期間に応じ見直し、状態が変化した際は終了する前であっても検討し見直しを行っている。月に2回の検討会を設けており、状況に応じてそれ以外の日でも行っている。</p> <p>本人やご家族の意見や要望等も集め介護計画の作成をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアの実践・結果欄、気づきや工夫欄を分けて見やすくし、利用者の言葉やエピソード等記録している。</p> <p>記録は業務開始前に目を通すよう取り決め、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>当事業所は特養と併設しており、看護師の支援はしてもらっているが医療連携加算は貰っていない。</p> <p>事業所周辺に社協の通所介護も有るが小規模多機能型のサービスは行っていない。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域のボランティア団体や保育所、小・中・高等学校の交流を積極的に行っている。</p> <p>また、実習やボランティアも積極的に受け入れしている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じて市の保健師や外部のケアマネと連絡を取り合い、情報交換や連携を行っている。</p> <p>また、お花見やショッピング等の施設行事の際、高校生ボランティアや地域の奉仕団の協力を得ている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターの職員に運営推進会議の案内を出したが、出席できないということで代わりに市役所民生福祉課の課長が出席している。</p> <p>入居者の所持金管理等については、併設の特養で行っている。</p>		<p>将来的に包括支援センターのサービスが利用者が必要となった場合、連絡・調整が必要である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の受診経過や現在の受診の希望を把握し本人やご家族が希望している、かかりつけ医となっている。受診時はご家族と相談した上で職員が代行し、経過を家族に報告している。		病状の早期発見・治療が出来るよう努めていきたい。
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設の特養施設の嘱託医がご家族や職員の話聞いて指示や助言をしてくれるが、それでも困難な事例は専門医へ紹介してもらっている。		利用者の状況に応じ適切な治療が受けられるよう、嘱託医の協力を得ながら連携していきたい。
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の特養の看護師に協力してもらい医療処置や相談、指示等の支援をもらっている。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は介護サマリを提出し日常のケアの方法や特徴など伝えている。 入院後5～7日で見舞いに行き、状態を聞いたり早期退院できるよう情報交換を行っている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が安心してサービスを継続できるよう日常の健康管理や緊急時の対応等、話し合いをしながらサービスを勧めている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応が可能なこと、困難なこと、不安なことなど職員で話し合い本人、ご家族の意向を踏まえ医師と連絡し合い対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	併設の特養に移った人は居る。 廊下で繋がっているので顔馴染みの利用者や職員が会いにいける。 支援内容も申し送りを通じ行っている。		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄等の声掛けも人前で大きな声で話さず本人を傷つけないよう、声のトーンに気を配りさりげない声掛けを徹底している。職員同士の会話でも個人名があからさまに出ないよう気をつけている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の意見が出ている献立、味付けに気を配り嗜好を把握した上で好みに添うよう工夫している。日常生活の中で選択できるような場面や声掛け、対応を心掛けて自己決定を大切にしている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日、15時半からの余暇活動では利用者に聞き取りをし、何がしたいのかを職員は把握し取り入れている。 利用者から出た意見は可能な限り受け入れ実施している		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝に着替えは利用者の意向で決めており行事の時は、前もって説明し選んでもらっている。 職員は入居者の服を見て誉めたり共に喜んだり会話に繋げている。 職員もユニフォームから私服にし、堅苦しさを軽減した。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態は個々にあわせ提供している。毎食時献立に沿って、話題を膨らませ耳や目などの五感で楽しむようにしている。また、入居者に役割があり片付け等も一緒に行っている。		
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者一人ひとりに摂取カロリーや水分量、栄養バランスを考慮し昔なじみのおやつを取り入れ入居者に喜んでもらえるように支援している。温かいものは温かく、冷たいものは冷たい状態で食べられるよう配慮している。受診や体調等で食事の時間がずれた時も適温で食べられるようにしている。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンやリズムを把握し随時排泄の誘導や介助、確認をしている。入居者の不安やプライバシーにも配慮しなるべく日中は排泄出来るように支援している。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	見守りや介助の利用者が多いので同一の時間帯で毎回順番を変えながら対応している。入浴は声掛けから着脱まで一連の流れを一人の職員が行い、個々のペースにあわせたケアをしている。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は巡回したり個々のリズムを把握し、夜間不眠の利用者には職員が声掛けし落ち着くまで支援している。昼食後、午睡の時間を設け利用者はソファや絨毯で休めるようなスペースを確保している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は女性ばかりなので、家事や裁縫、昔の話などそれぞれ得意分野を持っている。職員はその力を活かしながら、みずの皮むき、豆のさやとり、昔の知恵等をケアに取り入れ変化をつけるようにしている。また、個々を知る意味でこのような機会を大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、自己管理できる人は小銭で2千円位持っている。 事業所周辺にはジュースの販売機しかないので野外活動で出かけた時にお金を使う機会がある。しかし、自分のお金は勿体無いと話し使わず、家族が事務に預かっている所持金から支払う事が多い。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見やショッピング等に出かけたり、春から秋は月2回計画している野外活動を実施し入居者の希望を聞き実施している。 入居者の年齢層が高く、屋外への外出はたまにしか行けないので野外の時はなるべく皆を連れて行くよう考慮している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎年、秋に家族会ショッピングを実施し家族や子供と楽しい時間を過ごせるよう支援している。 入居者より食堂でラーメンが食べたいと要望があり実現した。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設の特養に公衆電話もあるが、ダイヤル操作が困難なので職員が代行し、相手と話せる状態になったとき受話器を渡す支援をしている。また、遠くの娘や息子から電話が来た際も職員が電話口まで介助している。その際も近況等伝えている。また、入居者宛に手紙が来た時は封を開けずに本人に渡している。返事の代行等も支援している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時は入居者と一緒に歓迎しており、居室でくつろいで頂きプライバシーにも配慮している。 お茶等準備しゆったりと時間を過ごせるよう気をつけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行わない方針であるが、やむを得ない場合は必ずご家族の同意を得ることになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が自由な暮らしができるように配慮し、日中は入居者の行動を察知したら声掛けしたり、一緒に行動するなどし安全に心掛けているため鍵は掛けていない。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で記録等を行い、日中は必ず1人見守っている。掃除やシーツ交換等居室に入る場合も1人は残って対応出来るよう決めている。夜間はリビングにて全居室が見渡せる場所で見守りしている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況変化によって注意を促していくなどしている。入所時に持参していたハサミだが認知症が進み危険になったので預り代用品で対応したこともある。薬剤や包丁、工具などの危険物品は保管場所を決め入居者の目の届くところには置いていない。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者に起こり得るリスクを検討し事故を未然に防ぐ努力をしている。賠償責任や災害時等の不慮の事故に備え賠償保険にも加入している。事故発生時は報告書や、ヒヤリハットまで報告が義務付けられ対応策はリスクマネジメント委員会で検討し再発防止に注意している。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時対応のマニュアルを作成し、慌てずに対応できるようにしている。また、併設特養の職員の協力体制が出来ている。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し年2回利用者とともに火災を想定し避難訓練を行っている。避難経路の確認、消火器の使い方、通報の仕方など業者の方から指導を通し訓練している。		火災を想定した訓練は実施しているが、地震、台風、水害、大雪の訓練は実施していない。これからは非常用食料や備品の準備、トイレの確保等も併設特養と検討中である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルや情報を集めたファイルを作成し、OJTを通じ勉強会をしている。 また、感染症の流行や対応策について保健所等から情報収集している。 毎年、入居者・職員共にインフルエンザ予防接種を実施している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	全職員が自己の体調管理、手洗い・うがいの徹底をし台所、調理器具、冷蔵庫の清潔・衛生管理に努めている。 食材は翌日の使用分を前日の午後に検品し買いだめはしていない。まな板や布巾、食器もこまめに漂白している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	違和感や威圧感を感じさせず、玄関が明るい雰囲気になるようプランターや鉢植えを置き環境整備をしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気・空調・照明の配慮、温度調節や生活感や季節感を出すため観葉植物やソファを置いて空間作りをし、暖簾やカーテン・装飾品で生活感を出している。照明のいかだには直射日光を和らげるため、すだれを活用している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前には絨毯やソファを配置しくつろげるようにしている。 また、廊下にはテーブルと椅子を置き写真を見たりお茶を飲んだりできる。所々に椅子を置き、誰でも自由に座れるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人やご家族との思い出の写真を飾ったり、暖簾や家族が持参した装飾品、使い慣れた時計や鏡等それぞれ馴染みの品を持っている。</p> <p>居室に備え付けのクローゼットが有るため家具の持ち込みは勧めているがほとんど無く、仏壇を持参した方はいる。</p>		<p>ご家族の協力を得ながら極力、馴染みの物品を入れていきたい。</p> <p>居室の入り口には利用者がそれぞれ選んだ暖簾を掲げている。</p>
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>臭い対策は、空気清浄機により保たれている。</p> <p>気になるときは換気しているが温度にも注意している。</p> <p>職員はリビングに有る、温度計や湿度計を確認し個々の状態や反応を見ながら調整している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>事業所内はバリアフリーで設計されており、手すりも周囲を囲むように設置されている。</p> <p>浴室に関してはまたぎ浴槽で高さもあるため利用者が歩行困難時、特に注意が必要となる。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者の状況変化に合わせ、何がわからないのかを把握し不安や悩みの原因にならないよう職員間で検討し対応している。</p> <p>状態により、職員が同行し間違いや失敗を気づかせないよう声がけ等している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>リビングから窓伝いにテラスがあり、自由に出ることができる。</p> <p>テラスには菜園がありそこで楽しさが生まれる。天気の良い日はテラスから見える岩木山の眺めが最高である。少しの間、日向ぼっこしたりする入居者も居る。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者とのコミュニケーションを多く取ることにより より深く一人ひとりの状況や心境を理解し、信頼関係が築けるように努めている。また、安心して毎日の生活が送れるよう、家族に近づけるようなケアを心掛け支援している。
併設の特養の協力もあり、栄養士による献立の支援や看護職による協力、ホームの行事は特養と合同で毎回盛大に企画・実施している。毎月何らかの行事がありホーム内での楽しみが増えている。地域住民とのつながりや法人内の他事業所とのふれあいも大切にしており、いつでも行き来ができ交流が持てる。